

「ハッピー・マザー・プロジェクト」で多くの少女や母親を支援。



バングラデシュから



3階を増築中のカリガンジの病院

バングラデシュの飢餓を、建国50周年の2021年までに終わらせるという、「ビジョン2021」を達成し、昨年11月に皆さんと共に祝うことができました。

そして2022年、私たちは「ハッピー・マザー・プロジェクト」をスタートし、進めています。私たちはコミットメントとフォーカスを、母親である人と未来の母親たちの幸せに向けています。それが家族の幸せ、世界平和につながると信じるからです。

そのために、新しい団体「ビコシト・バングラデシュ・ファウンデーション (BBF)」を設立しました。この団体の奨学金により100人の少

女が勉強を続けることができ、400人の女性の経済状態の向上をサポートしています。

皆さんの貢献により、私の片腕であるアンジュさんのリーダーシップのもと、北部で母子ケアのための病院を運営し、カリガンジにも母子ケアの病院を設立しました。この病院は、弘美先生のセミナーの受講生である約400人の女性たちが、協同組合のメンバーとなっています。皆さんのサポートに感謝しています。皆さんを愛しています。

(HFWバングラデシュ事務局長/BBF運営委員長 アタウル・ラーマン・ミトン)

インターナショナルトレーニングに、ミトンさんとセンチルさんからビデオメッセージが。



8月10日～17日にビジョン心理学インターナショナルトレーニングが開催され、13日には、こころのビタミン研究所紹介の時間がもたれ、海外支援先であり、このトレーニングに何度も参加しているバングラデシュのミトンさんと、ハイチのセンチルさんがビデオメッセージを寄せました。ミトンさんは新たなビジョン「ハッピー・マザー・プロジェクト」の進捗状況について、センチルさんは治安悪化の状況下でも医療保健センターは診療を続けていると語りました。映像から、二人のこころのビタミンへの愛と感謝が伝わってきました。

新型コロナウイルス流行の再拡大により、急遽オンラインのみでの開催となり、恒例のチャリティーオークションはできませんでしたが、今回のセミナーでの寄付総額は約90万円に

もなりました。皆さんのご支援ありがとうございました。また、ミトンさんやセンチルさん、海外からも多くの皆さんがセミナーに集い、楽しいチャリティーイベントができる日を思い描き、COVID-19の収束を祈ります。



こころのビタミン研究所の活動にご支援をお願いいたします!

→ご寄付はホームページからお申込みいただけます

【振込先】 郵便局: ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座: 三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073 東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL 03-5765-1956 FAX 03-5765-1961
E-mail info@cocoro-v.org
URL <http://www.cocoro-v.org>
ブログ <http://ameblo.jp/cocoro-v>
Facebook 認定NPO法人こころのビタミン研究所

ビタミンニュース No.30 2022年10月号
発行日/2022年9月25日 発行/認定NPO法人 こころのビタミン研究所

令和3年度 収支報告 (令和3年4月1日～令和4年3月31日 単位:円)

収入の部		支出の部	
会費収入	627,000	勉強会事業	0
勉強会事業	0	相談事業	107,466
相談事業	123,876	海外支援事業	
海外支援事業		バングラデシュ	5,976,834
バングラデシュ	435,000	ハイチ	4,684,285
ハイチ	81,000	東日本大震災支援	0
東日本大震災支援	0	熊本地震支援	0
熊本地震支援	0	自然災害支援事業	0
自然災害支援事業	0	子ども支援	2,201,650
子ども支援	103,000	あしなが育英会へ寄付	180,000
寄付金	17,457,029	喪失回復プログラム	88,900
喪失回復プログラム		会報及び出版物発行	395,398
受取利息	197	管理費、諸経費	4,068,070
当期収入	18,827,102	当期支出	17,702,603
前期繰越金	14,934,199	次期繰越金	16,058,698
合計	33,761,301	合計	33,761,301

令和4年度通常総会が6月3日に開催され、令和3年度決算報告及び令和4年度事業計画は満場一致で承認されました。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.30 2022年10月号



こころのビタミン研究所 — 創立から20年の歩み



年表 創立から20年の歩み
2001-2022

- 2001年11月 特定非営利活動法人(NPO)こころのビタミン研究所設立。(以下「こころのビタミン」)
- 2002年 2月 こころのビタミン発足イベント「無償の愛」を四谷区民ホールにて開催。参加者260名。
- 2002年 3月 こころの勉強会、相談会、講演会を東京、大阪など各地で開催。こころの相談は現在も実施。
- 2002年 4月 バングラデシュ支援開始。多目的トレーニングセンター、学校、女性の自立、有機農業などを支援。
- 2002年 6月 会報「ビタミンタイムズ」創刊号発行。(現: ビタミンニュース)
- 2002年11月 バングラデシュからミトンHFW事務局長を招き、東京と大阪で講演会を開催。
- 2003年 3月 創立一周年記念イベント「愛と感謝につつまれて」開催。後に「HFの集い」となる。
- 2003年 5月 栗原弘美代表理事、バングラデシュでセミナー「バングラデシュの未来のためのビジョン、リーダーシップ、パートナーシップ」開催。2015年まで13年間継続。
- 2003年 6月 バングラデシュ視察報告会。2015年まで毎年開催。
- 2006年 6月 ハイチの医療保健センターへの支援開始。
- 2006年 7月 東京都内の専門学校で学生へカウンセリング開始。
- 2006年 8月 伊藤由紀子さんによる「バングラデシュの子どもたちへの英語教材作り」プロジェクト開始。
- 2008年10月 チームピータ発足。「ここびたサロン」などを開催。
- 2009年 2月 徳富隆子さんによるEM石炭プロジェクト開始。
- 2010年 1月 ハイチ大地震。医療保健センター被災。
- 2010年 3月 ハイチからセンチルIAH代表を招き、講演会開催。大地震の被害を訴え、寄付を募る。
- 2010年 4月 栗原弘美代表理事によるOSK講座開催。OSK憲章としてこころのビタミンの基本理念となる。
- 2011年 3月 東日本大震災
- 2011年 3月 東日本大震災緊急募金開始。
- 2011年 5月 被災者支援プログラム開始。
- 2011年 5月 ハイチ医療保健センター新築の寄付活動を開始。
- 2013年12月 ハイチ医療保健センター完成。
- 2015年 5月 仮認定NPOとして寄付金税額控除団体となる。
- 2015年 7月 喪失回復プログラム開始。
- 2017年 1月 子ども支援開始。「てらこや新都心」等数団体を支援。
- 2017年 6月 ハイチの会セスラの小学校へ支援開始。
- 2017年 8月 ハイチの職業訓練センター建設開始。
- 2018年 6月 正式に認定NPOとなる。
- 2021年11月 バングラデシュ独立50周年記念イベント「ビジョン2021」の達成を祝して開催。
- 2022年 4月 HFの集い「創立20周年を記念して、私とこころのビタミン研究所」開催。

こころのビタミン研究所は、1999年に栗原英彰、弘美夫妻がバングラデシュを訪れ、「ビジョンの村」を作りたいと思ったことから始まりました。翌2000年、栗原夫妻はバングラデシュのミトンさん(HFWバングラデシュ事務局長)と「独立50周年である2021年までにバングラデシュの飢餓を終わらせる」という壮大なビジョンを創りました。そして、2001年に「物質的な飢餓も精神的な飢餓もなくして、平和な世界を作りたい。すべての人に心の相談相手を」をモットーに、NPOこころのビタミン研究所を仲間と設立しました。2015年には仮認定NPOとして寄付金税額控除が受けられるようになり、2018年には認定NPOとなりました。

また、2010年には栗原弘美代表理事が「OSK講座」を開催。OSK(エレガントなおせっかい)は、こころのビタミンの基本理念となりました。こころのビタミンは、国内では相談事業、喪失回復プログラム、被災者支援、子ども支援、災害支援を、海外では、バングラデシュとハイチを支援してきました。

バングラデシュは近年奇跡的な発展を遂げ、ミトンさんの「2021年までに自国の飢餓を終わらせる」というビジョンは実現しました! この実現には、栗原弘美代表理事が2003年から13年間、バングラデシュで開催したセミナーが大きく貢献しました。

2006年からは、ハイチのセンチルさん(IAH代表)の「貧しい人のための医療保健センター」を支援しています。ハイチ大地震で被災したセンターを新築し、また現在は職業訓練センターも建築中です。

こころのビタミンの活動を支えるハートフルファミリー(HF)会員は、設立当初90人でしたが、今年8月末現在で361人になりました。また設立初年度の寄付金は76万円でしたが、令和3年度は1,882万円。20年間寄付総額は約2億2,000万円にもなりました。

その用途は、バングラデシュへの支援は約7,300万円、ハイチへの支援は約7,500万円、子ども支援は約1,000万円、災害支援は約900万円となり、総額1億6,700万円が直接支援に使われています。

こころのビタミンがこのような活動できるのは、皆様の貢献のおかげです。本当にありがとうございます。

4月16日(土)、オンラインとビジョングダイナミクス研究所セミナールームとのハイブリッド方式で71名が参加し、「ハートフルファミリーの集い」が開催されました。創立20周年を迎えた今年は、湯田佐恵子理事が「こころのビタミン研究所20年の歩み」を紹介した後、「私にとってのこころのビタミン研究所」と題して、これまで活動してきた方々が、それぞれの思いをスピーチしました。

創立から20年の歩みを振り返り、それぞれのスピーチを聴き、その想いや行動の糸が織りなされて、ビジョンを実現し、今日のこころのビタミンを創り上げてきたのだと深く心に響きました。

このイベントを通して、25名ものハートフルファミリー(HF)会員の申し込み、既存会員の方から毎月の貢献金額の増額の申し出、12万円の寄付があり、参加者に感動の輪が広がったイベントとなりました。こころのビタミンに創立時から関わって下さっている方、その時々懸命に活動して下さい下さった方々、そしてこれから参加して下さる方々、全ての方に感謝します。

司会:吉野泰江(理事)

ハートフルファミリーの集い。創立20周年を記念して

「私にとってのこころのビタミン研究所」を語る。



吉田 真美
(理事)

私は30年前から世界の様々なプロジェクトを支援し、また米国の少年が核廃絶を実現させる映画「サイレントボイス」を観て、世界平和を考えるようになりました。バングラデシュのミトンさんに出会い、こころのビタミン研究所を発足させました。私の根底にある想いは「世界平和」です。



中野 京子
(理事・事務局長)

以前から事務を手伝っていましたが、昨年からは鷹野えみ子さんの後を引き継ぎ、事務局長に就任しました。毎年、寄付者の方にお礼の手紙と寄付受領証明書を郵送する度に、感謝の気持ちでいっぱいになります。私にとってのこころのビタミンは、愛と感謝とつながりです。



栗原 英彰
(理事)

1999年にバングラデシュを訪問した時、スラムの人々にビジョンを聞きました。彼らは、「住む家が欲しい」と答えました。私は「ビジョンの村」を作りたいと思いました。20年経って、そのビジョンは実現しました。ビジョンを実現させるコミットメントは、毎瞬毎瞬の選択の連続です。



柀津 都子
(理事)

こころのビタミンは、管理費が非常に低く抑えられ、海外支援先のリーダーと信頼の絆で結ばれた素晴らしい団体です。HFのみなさんは、こころのビタミンを支える柱であり、毎月の貢献は、寄付ではなく「より良い未来への投資」だと思っています。



大野 佳子
(HF会員)

昨年11月のバングラデシュ独立50周年記念イベントで集客を担当し、鷹野治夫さん、徳富隆子さんにパワーを頂きました。ミトンさんのビジョン達成ストーリーに感動が押し寄せ、貢献の世界へと導かれました。これがビジョンの力なのだと思います。



磯田 江利子
(理事)

認定NPO取得に当たっては、都庁の現地調査、細かい修正書類の提出など本当に大変でしたが、寄付者の皆さんが寄付金控除を受けられるようにと、必死でした。認定NPOへの道は私にコミットメントの力を思い出させてくれました。



栗原 弘美
(代表理事)

みなさんのスピーチが素晴らしく感動しています。NPO設立時にはえみ子さんが、認定NPO取得では、江利子さんが尽力してくれました。これからのこころのビタミンは、若い才能を必要としています。皆さん、ぜひ活動に加わって、こころのビタミンを益々発展させていってください。

Photo History



2002
発足イベントでスピーチする栗原弘美代表理事。



2002
6月発行の「ビタミンタイムズ」創刊号と最新の「ビタミンニュース」29号。



2007
バングラデシュを訪問。ビジョンを共にするスタッフや先生たちと。



2007
支援している小学校の運営費は、子どもたちの給食費にもなっています。



2010
「OSK講座」で「エレガントなおせっかい」の趣旨を語る栗原弘美代表理事。



2011
貧困家庭の子どもを診察するハイチの医療保健センター。



2012
栗原英彰理事がバングラデシュを訪問し、夫妻でセミナーをリード。



2013
新ハイチ医療保健センター完成。設計は中野隆一理事。



2013
ハイチの医療チームの皆さん。プレートには寄付者の名前が刻まれています。



2017
支援している「てらこや新都心」など4団体を招いて「HFの集い」を開催。



2021
建築中のハイチ職業訓練センター。治安悪化のため現在工事を中断。



2022
自立のために熱心にミーティングをするバングラデシュの女性たち。



ハートフルファミリー紹介

文野美里さんは、設立当初からのHF会員で、多額の寄付の他、HFをこれまで15人も紹介して下さいしています。その内13人は4月の「ハートフルファミリーの集い」後の新HF会員です。文野さんは、ハートヒーリングベガ代表として、カウンセリングやヒーリング等、20年以上活動されています。

私がハートフルファミリーになったきっかけは、こころのビタミン研究所設立前に実施されたバングラデシュ訪問に参加した、古い友人の話を知ったことでした。友人が持っていた1瓶しかないコーラを、カリガンジの子どもにあげたところ、一口飲んで隣の子へと次々に回っていったというのです。その光景に、日本にないものがバングラデシュにあると衝撃を受け、訪問前は、日本から一方的に援助できるような、上から目線だったと気づき、バングラデシュの物質的な飢餓、日本の精神的な飢餓をなくすために、お互いの豊かさを交換する架け橋になりたいというビジョンを話してくれました。その思い=こころのビタミン研究所のビジョンに共感しました。

私は「今あなたが幸せなら、感謝の気持ちで豊かさをお裾分けしてみてもいい」とお伝えしています。また、何か社会貢献したいと思いつつ、信頼できる寄付先が分からず、行動できていない方も多いようです。その点、HFの集いでもあったように、こころのビタミン研究所は、ビジョンが明確で、経費が少なくストレートに支援が届くことをお話ししました。

これからも思いを一つに、ビジョンを共有していきたいと思っています。

(HF会員 文野美里)

ハートフルファミリーの集いに参加して

イベントに参加し、先輩の皆様のお話を聞くことができとても良かったです。たった一つのビジョンを叶えよう、それを近くで見ている人がその影響を受けて変わってゆくかもしれない。コミットメントとは強い決断なのではなく、毎日毎日の選択なのだということ、時間の力の大きさである事、9年目に入った「社団法人てらこや」を運営している私も、とても理解できました。今後も、益々日々精進していこうという気持ちが沸きました。(HF会員 大場明美)

寄付ではなく、投資。素晴らしい投資だと思います。又、認定NPO、そこをクリアしていることも素晴らしいと思いました。(HF新会員 小田邊智恵)

毎月、とてもわずかな金額ですが寄付させていただき、それがこんなにたくさんの人の喜びや幸せにつながっていると思うと、こんなに幸せな豊かなお金の使い方はないと思います。私のお金がどんな風に使われたか聞けるのが楽しみで、毎回ワクワクしながら参加させていただいています。(HF会員 T.H)

治安悪化の状況下でも診療を続けています。

ハイチから



ハイチは、治安悪化が、未だに人々の生活に大きく影響しています。身代金目当ての誘拐事件や銃撃を恐れて、首都ポルトープランスを離れる人も多くいます。

このような状況下でも、私たちは首都のス

ラム近くの医療保健センターを開き、診療を続けています。3月~4月は210人の患者を受け入れました。ギャング間の抗争のため、一時的な患者の減少はありましたが、センター付近は平静を取り戻しつつあり、地域に不可欠な存在の医療保健センターに、患者が訪れています。貧困による医療ケア不足等に苦しむハイチの人々の生活改善の為、引き続きのサポートをお願いします。みなさんに心から感謝しています。

(IAH代表 センティル・ラゲル)